
阿波しらさぎ大橋整備事業
吉野川河口域に与える影響の総合評価報告書

平成 27 年 3 月 13 日



徳島県 県土整備部 東部県土整備局

目 次

■ 第1章 事業概要.....	1-1
1.1 阿波しらさぎ大橋の概要	1-1
1.2 環境への配慮	1-4
1.3 環境モニタリング調査	1-9
1.4 環境アドバイザー会議	1-24
1.5 事業の影響評価	1-26

■ 第2章 事業の影響評価に関する各種検討.....	2-1
2.1 事業の影響評価の概要	2-1
2.2 下部工の影響に関する検討	2-4
2.3 上部工の影響に関する検討	2-22
2.4 影響評価結果を受けた県のみティゲーションの考え方	2-50
2.5 参考	2-53

■ 第3章 環境モニタリング調査	3-1
3.1 環境モニタリング調査の概要	3-1
3.2 騒音・振動調査	3-6
3.3 水質調査	3-25
3.4 地形調査	3-56
3.5 基盤環境調査	3-94
3.6 底生生物調査	3-130
3.7 鳥類調査	3-169
3.8 魚類調査	3-209
3.9 昆虫類調査	3-219
3.10 植物調査	3-243

■ 第4章 本報告書の縦覧について	4-1
4.1 本報告書の縦覧	4-1
4.2 住民等意見書について	4-1

<参考資料>

・環境モニタリング調査の概要	参考-1
・環境モニタリング調査 GIS データ	参考-12

は し め に

阿波しらさぎ大橋は、徳島市内中心部の慢性的な交通渋滞を緩和するため、整備を進めている都市計画道路「徳島東環状線」の主要構造物として、平成 15 年 11 月に着工し、8 年余りの歳月をかけ平成 24 年 4 月に供用を開始した、一級河川吉野川を渡河する橋長 1,291m の長大橋です。



この橋が建設された吉野川河口域は、底生生物、鳥類、昆虫、植物など、様々な貴重生物が生息・生育している「広大な干潟」を有することから、大橋建設にあたっては周辺環境へ与える影響を最小限とし、いかにこの貴重な環境を守っていくかが課題となりました。

そのため、計画にあたっては橋梁の専門家等から成る「吉野川渡河橋設計検討委員会」を設置し、環境に配慮した構造となるよう検討した結果、干潟に橋脚を設置しない、世界でも類を見ない「ケーブルイグレット形式」を採用することとなりました。

また、施工中においても周辺環境への影響を低減する施工方法を採用し、環境モニタリング調査を継続的に実施することで、常に周辺環境の状況を確認しながら工事を進めてまいりました。

■ 計画段階の対策

干潟に生息する底生生物に対する影響を回避するため、干潟の橋脚間を長くすることで直接橋脚を設置しない橋梁形式（ケーブルイグレット形式）といたしました。この橋梁形式はケーブルを設置することから鳥類の飛翔状況への影響が懸念されましたが、ケーブル段数を少なくする（水平方向に見ると一本に見える）ことで、飛翔阻害を低減するようにいたしました。

■ 施工段階の対策

工事施工において影響を低減、最小にする施工方法（河床への影響が生じない台船施工や騒音・振動対策など）を採用すると同時に、工事中も環境モニタリング調査を実施して影響の監視を継続的に実施してきました。

■ 事業の影響評価

環境モニタリング調査の結果を踏まえ、上部工と下部工の存在による周辺環境への影響を評価いたしました。評価の結果、底生生物や鳥類などの生物に対して悪影響が生じているとは認められない結論にいたりしました。

本報告書は環境モニタリングの全調査結果を基に、「阿波しらさぎ大橋」建設に伴う周辺環境への影響を総合的にとりまとめたものです。

この報告書が単なる大橋建設事業の影響評価にとどまらず、吉野川の貴重な環境保全に役立てれば幸いです。

